

紙ふうせん

KAMIFUSEN NO.53

成田市立図書館だより 第53号 2003年（平成15年）3月1日発行

編集 成田市立図書館 〒286-0017 成田市赤坂1-1-3 ☎ 0476-27-4646
FAX 0476-27-4641



「むかし むかし、あるところに…」おとなが子どもにかえる心なごむひと時です。
（「おとなのためのおはなし会」12月13日開催）

2002年

一般文学講座

「生かそう、日本の心」

童門冬二氏(作家)

毎年読書週間にちなんで開催される図書館文学講座。今年度は秋色の深まった11月15日(金)に、視聴覚ホールで110余名の参加者を得て、盛況の中に行われました。

講師の童門冬二氏は、昭和2年生まれ。都庁職員で要職を歴任され、退職後文筆活動に入られたという異色の経歴をお持ちの人気作家です。歴史の中から現代にも通ずる歴史小説や評論を多数執筆され、講演活動も積極的に行われています。



当日の講演では、現代の日本を徳川幕府政権下の江戸時代になぞらえ、「徳川吉宗・田沼意次・松平定信が行った江戸時代の三大改革は、現在のバブル経済崩壊後の構造改革と同様に、時代の閉塞感の中で実施された。」と指摘されました。「このような時代の改革は、精神主義や先例・慣例主義では全く効果がなく、トップ自らが率先して有言実行してみせなければ、人心はついてこないし改革の成功はおぼつかない。」と説いていました。また、日本の歴史上の人物のエピソードが多数披露され、歴史に興味のある参加者にとっては、まさに至福のひと時であったことと思われます。

講演のテーマは「生かそう、日本の心」と少々堅めのイメージではありましたが、講師のユーモラスな口調に会場からは終始笑い声が起こっていました。また、講師の多岐にわたる研究と豊富な知識に裏付けられた説得力あるお話に、参加者は皆引き込まれ、時間の経つのが早く感じられる講演でした。

主 な 著 書

- | | |
|---------------|----------------|
| 「小説 上杉鷹山」学陽書房 | 「近江商人魂」学陽書房 |
| 「大江戸豪商伝」徳間書店 | 「渋沢栄一 男の選択」経済界 |
| 「国僧日蓮 上・下」学研 | 「吉田松陰 上・下」学陽書房 |
| 「鬼作左」PHP研究所 | 「童門冬二の歴史余話」光人社 |
| 「前田利家」小学館など多数 | |

図書館講座

市史講座

「幕末における民衆蜂起—経済道德の規準をめぐって」
大 舘 右 喜 氏 (國学院大学大学院講師)

今年度の市史講座は、10月12日（土）に57名の参加者を得て開催された。大舘先生は、埼玉県史をはじめ各地の市町村史の編さんにも活躍され、幕末期の研究として『幕末社会の基礎構造』、その他『幕藩制社会形成過程の研究』等を発表されてきた。講演では、長年の調査や研究の一端をイギリスの研究者の見解も交えて話された。

幕末社会についての研究は、戦後の民主化が進展した時期に盛んに行われた。その中で、「明治維新から明治10年代のいわゆる民権運動は、幕末の世直し運動などが展開したものである」との見方が強調されてきた。そこで大舘先生は、関連の資料を見る等の研究を続ける過程で、別の解釈もあるのではないかと



との考えに至り、欧米の諸研究を調査することになったという。

民衆が蜂起するのは、一般の社会においての経済活動が市民民衆の容認される規準を超えた状況に至った時に起こりやすい。幕末には、非常に増えた。具体的には打ちこわしや一揆という形で現れる。経済活動が、市民民衆と豪農豪商相互に納得がいくような状況であれば、打ちこわし等の実力行使に至らないというようなことを、イギリスの研究者トムソン等も言っている。しかし、日本の民衆蜂起には、もう一点特徴がある。これは市民民衆の要

求やあるいは受諾というものが、村（村落共同体）を通して行われたという点で、村落共同体の役割が大変重要であったという点であると強調された。

騒動を未然に防いだ例として、中山道の中でも大規模であった武蔵本庄（現在の埼玉県本庄市）の万延2年（文久に改元・1861）の動きを史料をもとに紹介された。ここでは、有力者からの施米・施金によって打ちこわし等の実力行使寸前でくい止められた。また、騒動が実際起こった場合、その運動は秩序が守られ、整然と行なわれたという。

また、既刊の『成田市史』から成田村の幕末期の住民構成について、改めて準備された分析も紹介された。具体的な史料にもとづくお話で、百数十年前の市民の暮らしが実感できた講演会であった。

児童講座

「宇宙ってどんなところ？」

—くらやみでも光る星座カードと太陽系モデルをつくろう—

坂口 美佳子 氏 (科学読物研究会)

今年の科学あそび講座は、7月26日(金)に「宇宙ってどんなところ?—くらやみでも光る星座カードと太陽系モデルをつくろう—」というテーマで行われました。

“宇宙とは何か”この謎を知るために、初めに坂口先生から順に質問がだされました。

- ①「みなさんの弟や妹に、宇宙ってなに?どんなところ?と聞かれたら、どう答えますか。」
- ②「地球を本物の1/1億の大きさとみると、スペースシャトルは、地球からどのくらい離れたところをとんでいるか。また、月や太陽はどのくらいか。」

この質問に子供たちから、バラエティーにとんだ答えが返ってきました。先生はそんな子供たちの声にていねいに耳を傾けていらっしゃいました。大切なことは各々が自分で考えて、想像(予想)することにあるのです。そのことが、その後に行う実験への理解を深め、宇宙という今だ未知なる世界への興味を起こさせると思われました。

次に“宇宙には空気がない”と言われていたことから、真空の実験を行い、真空状態で温度や音はどのように変化するのか、実際に自分の目で確かめました。そして宇宙についての知識を得たところで、最後に夏の代表的な星座である“さそり座”と“はくちょう座”の星座カードと太陽系の惑星モデルを作りました。光かがやく星たちができあがるにつれて、48名の子供たちは歓声をあげ、夏の夜空に思いをはせているようでした。



参考になる本

『ぼくのいまいるところ』かこさとし(童心社)『宇宙』かこさとし(福音館書店)
『かこさとし・ほしのほん② なつのはし』かこさとし(偕成社)『春・夏の星座』小林悦子(講談社)『スペースシャトル 宇宙へ』サリー・ライド(偕成社)『宇宙をみたよ』宙野素子/文 毛利衛/監修(偕成社)『太陽とわく星』藤井旭(講談社)



赤ちゃんも絵本が大好き Part2 —こんな本はいかが?— 「おつきさまこんばんは」 林 明子さく 福音館書店

夜になって、まんまるお月さまが顔を出しました。ところが、雲がやって来てお月さまを隠してしまいます。屋根の上の猫も心配そう…。でも、だいじょうぶ。また、にこにこまんまるお月さまに「こんばんは」って言えますよ。小さい子どもたちが大好きなお月さまに会える本です。

編集後記

今冬は久しぶりに冬らしい寒さでした。図書館の隣にある赤坂公園の池が、何度も凍るほどでした。冬が寒ければ寒いほど、春を迎える気持ちはうれしさが増すことでしょう。暖かくなったら、春を見つけに散歩に出ませんか?その時は、ぜひ図書館にも寄ってくださいね。

成田市立図書館だより

発行 成田市
編集 成田市立図書館
〒286-0017 成田市赤坂1-1-3
☎0476-27-4646
発行日 2003.3.1
登録番号 成教図360